

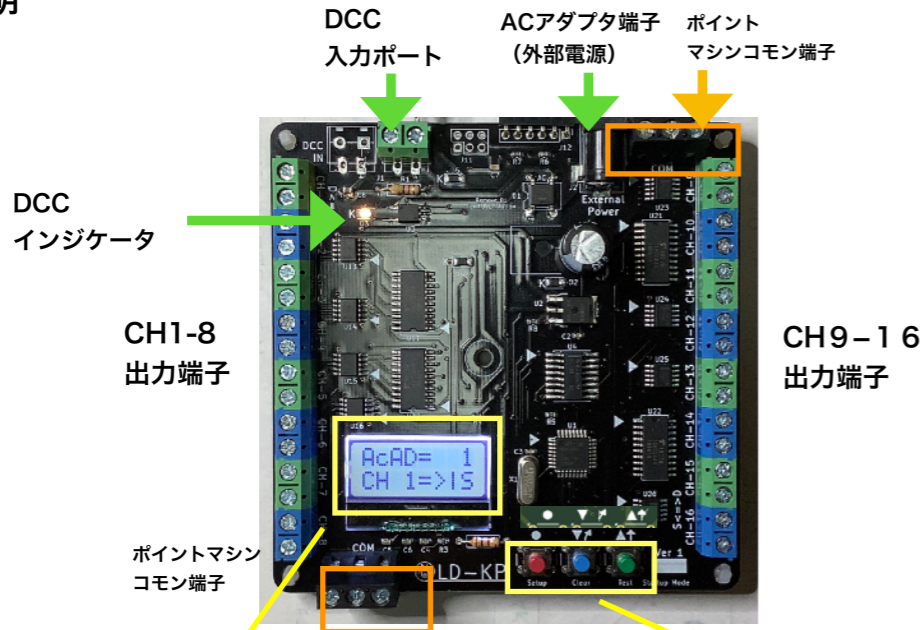
■概要

レイアウトデコーダKPは、KATOポイントを効率よくDCC化するための外付け16ちゃんねるポイントデコーダです。ポイント動力はDCCが基本ですが、AC/DCアダプタを使ってコマンドステーションから離れた場所でも、より確実に駆動することも可能です。ルート機能を使えば、一つのアドレスで一括操作が可能です。試運転に便利なLayout Decoder本体での操作も可能です。

・・・ルート機能とは？

あらかじめ、ポイント操作の組み合わせを設定しておき、その設定をDCCコマンドステーションもしくは本体操作スイッチで呼び出す機能。駅の入線場所(〇〇番線)を指定するのに便利です。

■各部の説明



LCD表示付き
上のラインは操作命令
下のラインはポイント稼働履歴
です。

スイッチ付き
ローカルオペレーションに使用します。
(右のページを参照ください)
また、押しながら電源を投入することで動作モードを切り替えます。

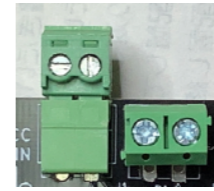
■仕様表

項目	内容	備考
大きさ	約100mm x 100mm x 30mm	取り付けネジは4角+中央の一箇所です。
電源	DCC:12V~19V 外部電源(オプション): 12V~20V	ACアダプタ端子にコネクタを装着すると電源が切り替わります。ACアダプタはDC出力のみ利用できます。(KATO D101用 AC出力アダプタを繋ぐと故障します)
ポイント出力	1A	以下備考を参照ください
アドレス設定	1-250(DCCアクセサリアドレス)	

備考: TOMIX, Fleishmann, PECOポイントモーターでも動作確認していますが、耐久試験は未実施です。今のところ故障する事例はありませんが、半導体の定格仕様を超えた使い方になりますので、動作保証範囲外とさせていただきます。

■電源の接続方法

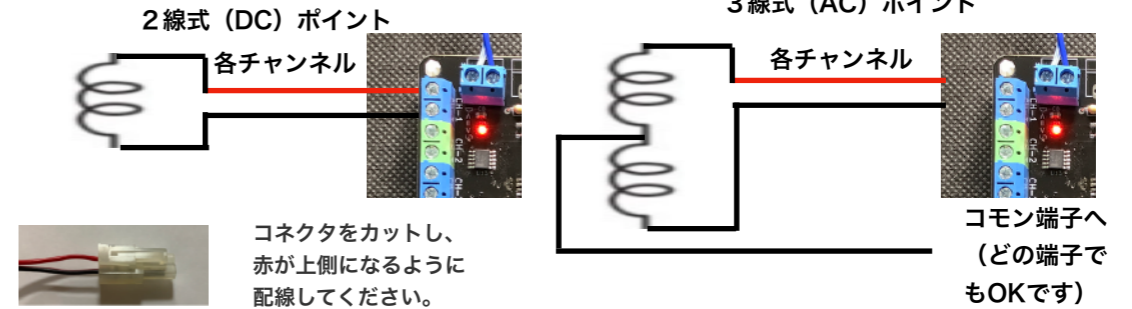
DCC入力ポートに接続してください。なお、別売ユーロコネクタ(DesktopStation扱いあり)を追加すれば、渡り配線可能です。



ACアダプタ(DC出力)をつなげば、DCCコマンドステーションの電流負荷を低減できます。

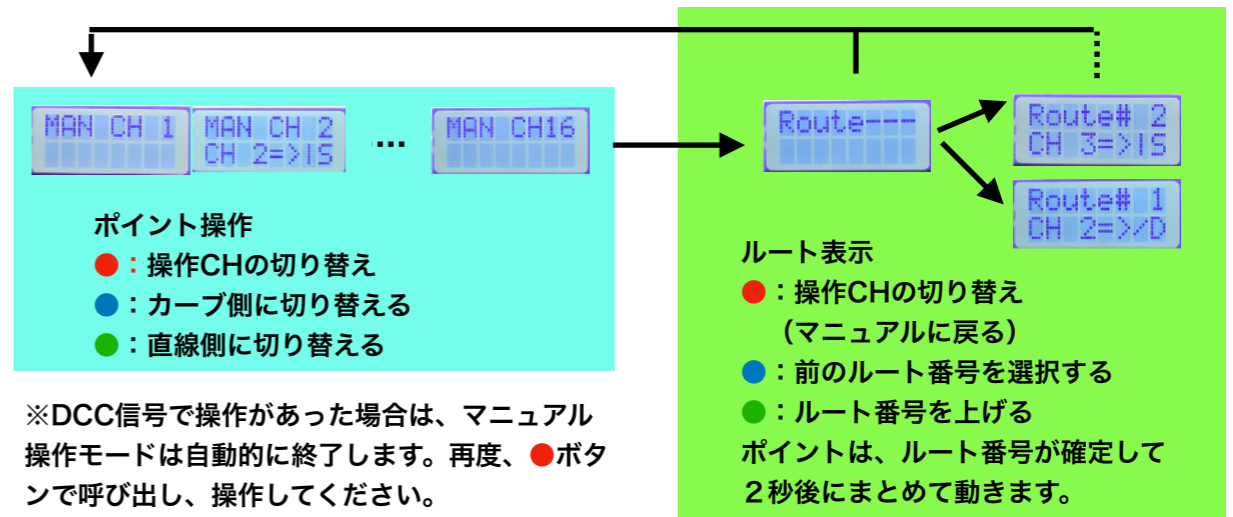


■ポイントマシンの接続方法



■ローカルオペレーション

ポイントを接続しましたら、本体のスイッチを使って、動作を確認してください。また、ルート設定(次ページ参照)を行いますと、事前に登録した方向に一括操作することができます。



■DCCオペレーション

DCCアドレスでポイント操作、ルート操作が可能です。DCCアドレスの変更方法は次ページを参照してください。

ポイント操作

出力チャンネルごとに事前に設定されたDCCアクセサリアドレスでコマンドステーションから操作できます。



チャンネル4をストレート側(直線側)に動かした直後の表示例

ルート操作

ポイントの一括変換機能です。ルートごとにDCCアクセサリアドレスを一つ設定します。



ルート1にDCCドレス20が設定されており、CH12がDIV側(曲線側)に動いた直後の表示

ヒント!

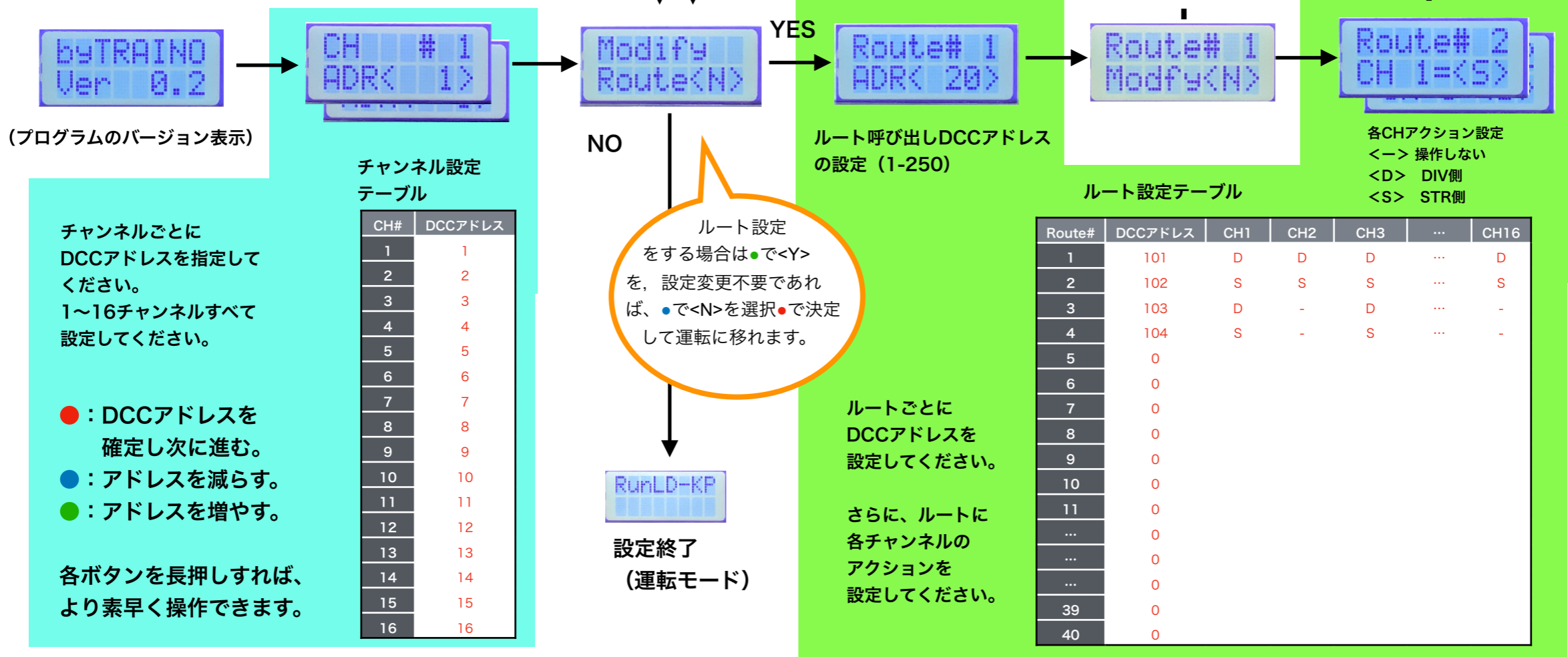
- ご利用になるコマンドステーションのアドレスとレイアウトデコーダのアドレスの関係をご確認ください
DSair2->同じです。KATO D101(Digtrax OEM品)->同じです
z21,MultiMaus(ROCO/Fleischmann)->アドレス番号+4を設定してください。

■設定変更方法(●スイッチを押しながら電源ON)

バージョンを表示した後、各チャンネルにDCCアドレスを設定します(以下水色部分)。

その後、ルート設定(緑部分)の設定に写ります。

[ModifyRoute]で<N>を選定すると、残りの設定をバイパスして、運転モードが始まります。

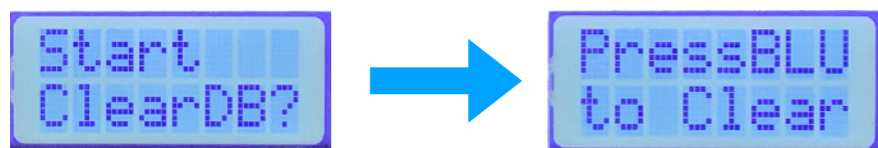


※DCCアドレスは1-250の範囲です。
 ※「0」はアサインなしを意味します。
 表の値はデフォルト値ですので、上記操作で変更してください。

上記の1事例での動き
 例では、DCCアドレス101に指令(D側もしくはS側)を送りますと、ルート#1が選択されて、CH1,CH2,CH16をDIV側(カーブ側)に操作します。DCC103では、奇数チャンネルのみ動きますが、偶数チャンネルは現状維持になります。

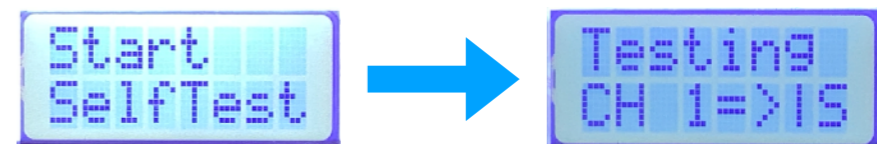
■初期化方法(●スイッチを押しながら電源ON)

青スイッチを押しながら電源を入れますと、下の画面が表示されます。もう一度青スイッチを押せば、上記表のデータ(赤文字部分)を初期状態に戻せます。初期状態では、各チャンネルは、チャンネル番号(1-16)に書き込まれます。



■ポイント動作確認(●を押しながら電源ON)

緑スイッチを押しながら電源を入れますと、テストモードに入ります。自動的に、CH1~CH16に対して操作信号を出力します。確実にポイントが切り替わるか、また直線方向が合っているかを確認してください。また、再度緑スイッチを押すとテストを終了します。



デフォルトではCh1=アドレス1, ...Ch16=アドレス16です。
 なお、コマンドステーションによっては、アドレス番号+4の入力で動きます。